



橋 戸

令和3年9月1日
学校だより 第5号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

“考える”を考えてみる

校長 青木 俊哉

夏休み中「発想転換！世界を変えるシン・キング」というテレビ番組と出会いました。シン・キングというタイトルの言葉が頭に残り、お笑いコンビ千原兄弟のジュニアさん、タレントの Daigo さん、乙葉さん、IT 企業社長の前田裕二さん、子役の村山輝星(きらり)さんという5人の出演者のやり取りを、最後まで楽しく見ていました。「発想を変える」という番組のコンセプトに基づき、「世界の人々を悩ます問題をどう解決するか」というテーマを、「マインドマップ」を使って整理・分析し、まとめていくというクイズ形式の番組です。5人の中から進行役(ファンリテーター)を決め、残る4人が自由に意見を言い、進行役が「マップ」を活用してまとめていくという流れ、いわゆる「ブレインストーミング(通称“ブレスト”）」の手法を使っていました。番組の冒頭、「マインドマップ、ご存知ですか？」と振られた際、知っていたのは前田氏ときらりさんの二人。企業人であり、情報番組でのコメンテーターとしても良く見かける前田氏が知っているのには驚きませんが、きらりさん曰く「だって、学校でよく使われるから…。」には他の出演者がびびり！使うか使われるかは別としても、確かに今日の学習では、各教科の学びの中にマインドマップ(ウェビングマップ、イメージマップ)をはじめとする「思考ツール」と呼ばれるものが様々取り入れられています。日常の学習や学校生活の中でブレスト的な意見交換の場が設定されることもあり、今どきの子供たちにとっては慣れたこととも言えそうです。小5のきらりさんが知っているのは、とくに驚く程のことではないのです。

“考えを整理する”、関連づけや焦点化、仲間分け…、こういったカテゴライズ(分類)の手法としては、古くから KJ 法が有名です。学生時代、レポートや卒論をまとめる時期に、入門期の書物としてお世話になった方もいると思いますが、カードや付箋を活用した分類、分析は、今でも役立つ方法です。「思考ツール」は、これと同様に、頭の中を整理するために“考えを可視化する”手だてを指し、Xチャート・Yチャートやクラゲチャート、フィッシュボーン、同心円、マトリックスなど、学校教育にも登場し、子供たちにも使われています。さらに付け加えれば、これらの分類、分析の方法の中には、すでにデジタル化が進むものもあり、子供たちが使っているタブレット型端末でも、デジタル付箋を生かした分類や、書き込みをもとに整理・分析・統合することなどができます。まだ機器の導入から半年余りであり、十分活用しきれてはいませんが、こういったデジタルツールを生かすことも、子供たちの学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力の向上につながるものと考えます。

本校の今年度の校内研究は、「自分の考えをもち、楽しんで伝え合うことのできる児童の育成」の主題で進めます。一人一人の子供たちが考えをもてるよう、教材との出会いを工夫し、考えたことを伝えるための手だてを開発、共有することで、子供たちが自分に合った学び方を身に付け、学び方や教材の工夫・改善を図りたいと思います。番組最後の感想として、千原ジュニアさんは「ブレストってどんな意見も否定しないことが前提。すべてを肯定して、その先に何かがあるっていうね。それがすばらしいと思いました。」前田裕二さんは「正しい答えに行き着くことではなく、答えに行き着くまでの過程にこそ価値がある。」と残していました。様々な意見やアイデアを出し合い、一見違うかな…と思えるようなものでも考えていくうちに役に立ってくる、お二人の感想は、まさにこれからの学校教育を通して、子供たちに味わわせ、伝えたいことにつながるように思えます。